

若者の意識に関する調査(ひきこもり調査) 骨子

標本数 5,000人(全国15歳以上39歳以下の者)
有効回収数(率) 3,287人(65.7%)

ひきこもり群の推計数

	有効回収率に占める割合(%)	全国の推計数(万人) (注1)	
ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のみときだけ外出する	1.19	46.0	準ひきこもり 46.0万人
ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどには出かける	0.40	15.3	
自室からは出るが、家からは出ない	0.09	3.5	狭義のひきこもり 23.6万人 (注2)
自室からほとんど出ない	0.12	4.7	
計	1.79	69.6	広義のひきこもり 69.6万人

ただし ア)現在の状態となって6ヶ月以上の者のみ
イ)「現在の状態のきっかけ」で、「病気(病名:)」に統合失調症又は身体的な病気、又は「その他()」に自宅で仕事をしていると回答した者を除く
ウ)「ふだん自宅にいるときによくしていること」で、「家事・育児をする」と回答した者を除く

(注1)総務省「人口推計」(2009年)によると、15~39歳人口は3,880万人より、有効回収率に占める割合(%)×3,880万人=全国の推計数(万人)
(注2)厚生労働省の新ガイドラインにおけるひきこもりの推計値は25.5万世帯となっており、ほぼ一致する。

ひきこもり親和群の推計数

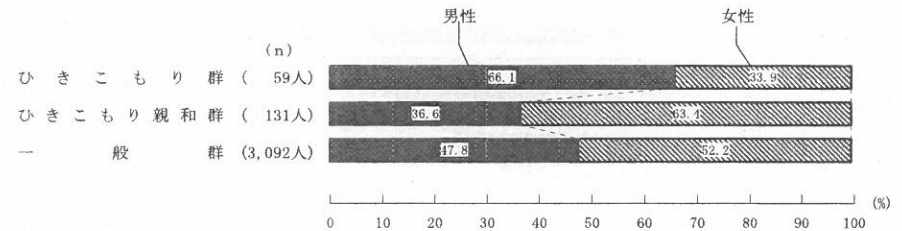
Q27—11~14の4項目が、①4つとも「はい」と答えた者、及び②3つは「はい」で1つのみ「どちらか」といえば「はい」と答えた者の合計から「ひきこもり群」を除いた者を「ひきこもり親和群」と定義。

11. 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちがわかる
12. 自分も、家や自室に閉じこもりたいと思うことがある
13. 嫌な出来事があると、外に出たくなくなる
14. 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方ないと思う
(1.はい 2.どちらかといえばはい 3.どちらかといえはい 4.いいえ)

ひきこもり親和群の有効回収率に占める割合は、3.99%
ひきこもり親和群の推計数は、155万人

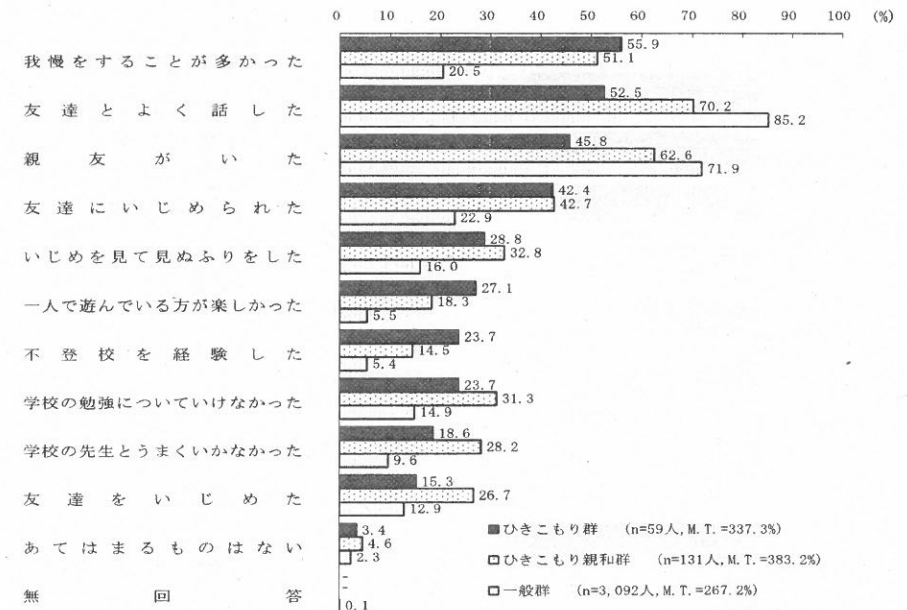
性別(Q1)

ひきこもり群は男性が多く、ひきこもり親和群は女性が多い傾向



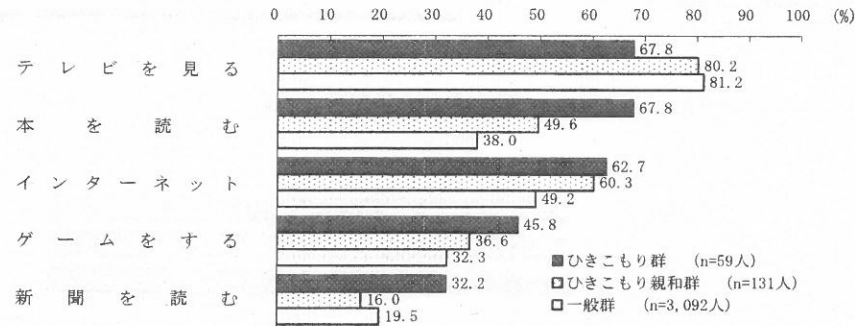
小中学校時代の経験(Q11)

ひきこもり群やひきこもり親和群は学校生活が必ずしもうまくいかなかった様子がうかがえる



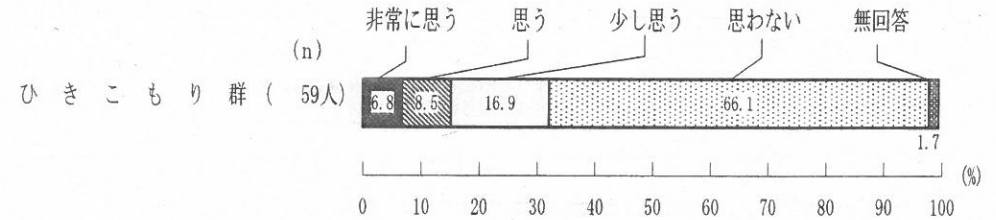
ふだん自宅で行っていること(Q18)

ひきこもり群とひきこもり親和群は、一般群と比べて「本を読む」や「インターネット」が多い



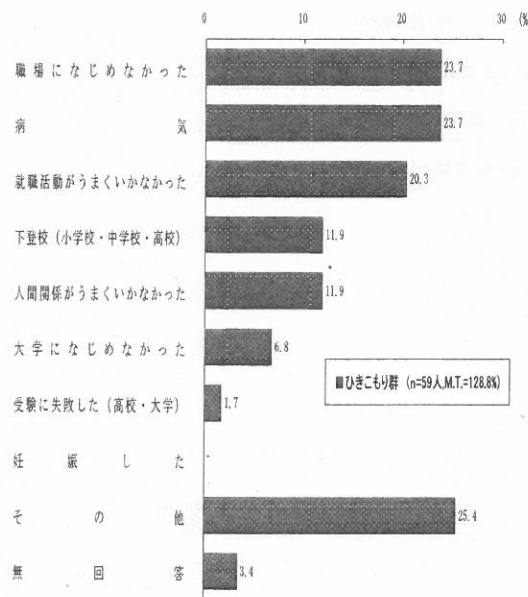
現在の状態について関係機関に相談したいか(Q24)

現在の状態について関係機関に相談したいと「思わない」者が、7割近く



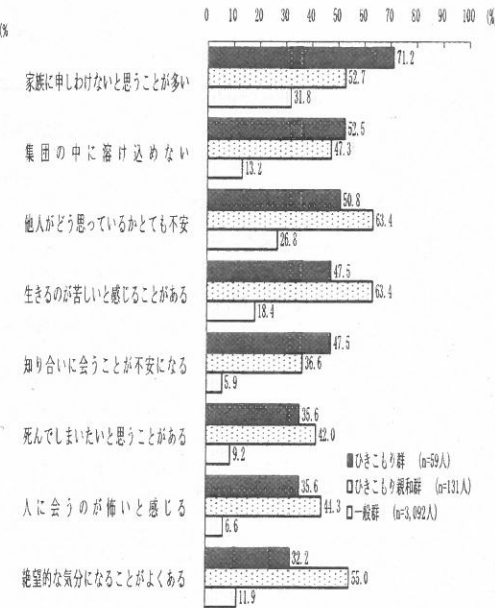
きっかけ別(Q23)

仕事や就職に関するきっかけによってひきこもった者が多く、学校に関するきっかけの者は少ない



不安要素(Q28)

ひきこもり群と親和群は、一般群と比較して、様々な不安要素をかかえている



どのような機関に相談したいか(Q25)

現在の状態をどのような機関なら相談したいか聞いたところ、①「親身に聴いてくれる」32.2%、②「精神科医がいる」が27.1%、③「無料で相談できる」23.7%、などの順

